

2025年

APL P202504-1n7

APL Association
of Product
Liability

JAPAN
<https://apl.or.jp>

たった一つのQRコードで B2Cトレーサビリティが実現！ 10年経っても簡単にリコール通知できます！

すこどっと 安全点検アプリ **scodt**

B2Cトレーサビリティでの大きな可能性は
企業、ブランド、営業の大きな後ろ盾に！！



何よりも大切なのは商品を実際に
使用しているお客様です。
安全情報は直接伝えましょう。



Li電池パック

Safety Check On-Demand Technology

製品安全スマート化を実行する特許取得（国際特許取得済み）

EUではPL（製造物責任）法の大きな改正が進んでおり米国では食品トレーサビリティ法も来年から始まります。このため、いち早く世界最大の小売が全食品のリコールのできるトレーサビリティを取引条件としました。この対応が今すぐできるクラウドサービスのご案内です。

流通用のQRも読める最新のQRコードリーダーです。



無料アプリDLサイト
www.scodt.jp

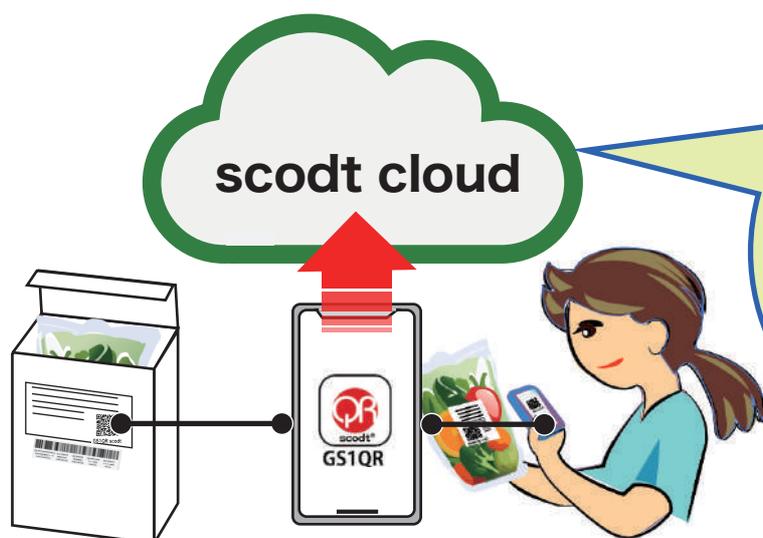


日本では唯一のPL（製造物責任）の専門団体
一般社団法人 APL-Japan



<https://apl.or.jp/>

いつ、どこで、どのモバイルでアクセスしたのか、その記録が様々な場面で活用できます。



製品につけた一つのQRコードでアクセスしたモバイルと製品を特定し通信履歴を蓄積します。

scodt cloudは 何ができる？ バイヤーやユーザーが求めることは？

商品に表示されたたった一つのQRコードで多様な情報をサプライチェーン全体や実際の製品ユーザーに伝えることができます。また家電のように譲渡されたり中古市場で再販されても点検時期、方法、寿命到来の通知ができることで、事業者の消費者に伝える責任が達成されます。

- ✓ リコールが直ちにできる
- ✓ 世界の流通標準を利用する
- ✓ 安全安心品質で市場競争力を強化する
- ✓ 経営リスクを低減し働き方改革促進



詳しくはscodt専用サイトをご参照ください。

<https://scodt.com/>



GTIN+LOTごとのモバイル用webサイトが自動生成され、さまざまなシーンで画面が切り替わります。

リコール品



GS1QR
scodt®



難しいことは私たちに任せてね！



D2Cを利用したマーケティングや販売戦略への活用
欧米、ASEANなどでの新たなPL法に対応！

scodt cloudは個人情報に依存しません。 それだからこそ、できることがたくさんあります。



商品ロットごとにアクセスされた「個人情報に依存しない膨大な情報」をどのように利用しますか。
リコールや買い替え、リアルタイムの出荷後のトレーサビリティ情報はグローバル社会での賢い経営の原資になります。

現在問題になっている令和の米騒動や国産野菜が高騰、オーバードーズ、火災や事故の原因になる粗悪品の排除など、あらゆることが出荷後のトレーサビリティと仕入れ品の情報信頼性に深く関わります。
販路で起きていることを重視するかしないかはこの先の経営に大きく影響します。

今では電子マネーでもQRコード読み取りには専用アプリが主流になりました。製品の安全情報を伝えることやより便利に利用していただくための情報を伝えることは、大量な食品や製品を利用する消費者や小売などの事業者もますます重要になります。この「安全点検」も専用のアプリで、だれでも簡単にできれば販売先、購入者、使用者も安心して利用することができ信頼度も高くなります。

- 説明書や食品ならアレルギー、製品寿命などは特に気になります。
- リコール品と知らず使い続けたことでの重大事故再発も回避させなければなりません。
- 気になったら直ちに確認することがたった一つのQRコードで可能になります。

表示ラベルなどを書いてないこと(を)を知りたい、この消費者ニーズを本体に表示した流通システム用のQRコードで、そのアクセス履歴を製品とロット単位での「デバイスのID、時間、位置情報などの履歴情報」を個人情報に一切依存せず得られる情報はこの先の大きな経営資源になります。下記の対応も今すぐできます。

北米のWalmartやKrogerなどへのGS1 2D対応

24時間以内の市場での再発防止と原材料トレーサビリティは必須です。

米国大手小売2社による、仕入れへの「法規制を超えた要求」

WalmartとKrogerは、FSMA204を超える内容を食品サプライヤーに要求

- 日本から米国に加工食品を輸出している企業に影響が出る見込み。

	FSMA204	 (2023年12月発表)	 (2024年12月発表)
対象商品	生鮮品	すべての食品 (非生鮮品を含む)	すべての食品 (非生鮮品を含む)
開始時期	2026年1月20日	2025年6月30日 約7か月前倒し	2025年8月1日 約6か月前倒し
GS1標準の使用	言及なし	必須	必須

出展元

野村総合研究所水谷禎志氏

https://one.walmart.com/content/food-safety/en_us/food-safety-requirements/food-traceability.html

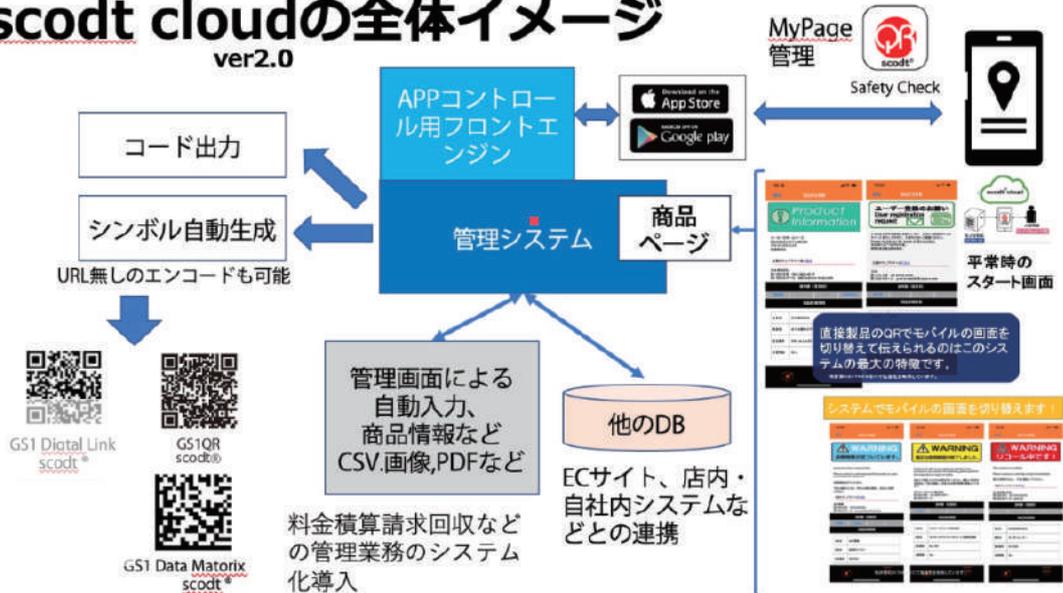


管理システムについて

scodt cloud

scodt cloudは品質管理DXの ワンストッププラットフォーム

scodt cloudの全体イメージ ver2.0



**BtoCトレーサビリティが可能なのはGS1標準のGS1QRを使用しているからです。
今までのバーコードを変えるだけ、社内システムに負担はありません。**

品質管理における主たる取り組みは安定した高品質を維持するため様々な規定、ルールで各社の独自のノウハウを駆使し日々高品質な製品を製造し販売されています。今特に経営者などに注目していただきたいことは、「**自主回収やリコールに代表される出荷後の品質異常の対応が重要**」になっています。

PL法や表示規制法、ISOなど、特に海外での状況に注目してください。

日本ではあらゆる原材料などが輸入に依存し、仕入れ品のサイレントチェンジが原因のリコールも多く出ています。さらに輸出依存の産業構造では海外の動向に常に最新の取り組みが必要で、全ては経営責任が問われる時代です。

- スマート社会ではこれまでの指示の方法、具体的な成果は確認できているか
- 対応時間(北米では24時間)に対応できるか
- サプライチェーンの協力が得られているか
- 仕入れ、出荷後のモニタリングができているか取扱説明書からラベル、広告表示、様々な情報を10年後、30年後でも瞬時に取り出し利用できるように管理できているか
- 商品ユーザーとのリスクコミュニケーションができているか
- トレーサビリティもGS1標準、さらにリコールや製品事故発生時の対応など、難しいことは当団体の専門家にお任せください。

僕はすこどっと、
難しいことは
任せてください。





scodt cloudは ノーコード、 導入も管理もシンプルで誰でも楽々。

管理画面に必要な情報を入力すればスマホ画面は自動生成されます。
モバイルアプリと管理システムは暗号化され通信されること、さらにこのシステムで利用するQRコードは流通小売の自動認識に利用するものなので、模倣やサイバーハッキングのリスクも限りなく低減させてます。それを全てノーコードでだれでも使えます。



GTIN(代替コードも使用可)とLOTコードを入れると下記のモバイル専用画面が自動生成されます。これにより毎日切り替える必要のある食品などでの膨大なケースでも負担なくカスタマイズ対応可能で、確実にロットごとの様々なデータ保管とそれを利用したコンテンツ配信管理ができます。

モバイルで閲覧する画面は、簡単に様々なシーンに合わせて切り替えることができます。普段は「お知らせ」寿命通知などは設定された日時になると切り替わり、リコールはいつでも切り替えられます。

申し込み手続きが完了するとログインのURL、ID/PWが登録された住所に郵送されます。あとはPC、タブレットなどで管理画面にアクセスし直ちに利用開始できます。



平時は緑

取説やレシビ

成分試験検査書など

システムでモバイルの画面を切り替えます！



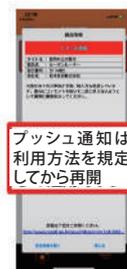
個人情報に依存しない安全なプッシュ通知

アクセス履歴情報のデバーストックを利用し製品とロットを特定し送信します。

リコール品



輸入事業者は倒産しているため消費者庁のリコールデータベースにリンクしていません。



プッシュ通知は利用方法を規定してから再開

登録に必要な情報を準備してください。

- ①画面に表示したい社名、連絡先(電話、メールアドレス、自社のwebサイトの商品に関係のあるURLなど)
- ②商品コード:流通するものはGTIN(JAN)、しないものは代替の数字13桁以内の自社コード
- ③LOTコード:半角のアルファベット大文字小文字数字20桁以内の任意コードを準備してください。
- 書き出し6桁はロット付番年月日6桁(250801など)、後は生産場所や管理コードを利用ください。場所を示す郵便番号、GLN(JANコード取得時に送られてくる数字)などを利用し、商品コードが同じでも生産場所などが異なる場合の管理ができます。
- ロット切り替え時に先頭の日付を変えることで管理が簡単になります。
- ④詳細はZOOMによる事前説明、送付される書面などをご参照ください。



詳細は https://apl.or.jp/?page_id=2823

scodt cloudの利用例

農家がトレーサビリティに参加する具体的な例です。

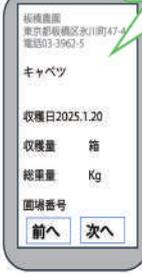
- 1 農家の収穫し出荷準備ができたならその場でラベルと出力する
- 2 scodt cloudに情報や送られ、それを実需者のカット野菜事業者へ通知される。
- 3 モニターで農家の場所、収穫情報を確認し発注することができる。
- 4 そのデータは全てクラウド上に記録される。
- 5 農家をはじめ品質異常があったら直ちに消費者にも通知できる。



収穫後直ちに発送されれば鮮度も劣化せずロスを低減し歩留が向上する。

ハンディラベルプリンターのイメージ

農園情報などはプリセット、野菜品種、出荷単位、収穫量や重量などを入力



ラベル印刷内容表示

- GTINは品名と事前登録
- LOTは収穫日(自動切り替え)の6桁と圃場コードで自動生成
- 出力枚数を決めラベル印刷



国産野菜が欲しい加工事業者はそのデータをリアルタイムに見れます！



収穫野菜の出荷記録、集配事業者での送り状自動生成、収穫状況の物流ハブ単位の状況、受発注フォームや伝票自動生成などがこの小さなプリンターで簡単にできます。

始まっています！

データ駆動やGHでの生産と物流効率化



ラベルのミスもなくなります！

GS1QR はレジの読み取りにも対応！

ラベルの貼り間違いや記載内容トラブルで食品の自主回収やリコールが多発し大きな問題になっている。これもこのシステムで管理すれば、加工現場でも生産ラインのプリンターとAPI連携することで解決できる。

- 日付を組み込んだLOTコードのGS1QRを自動生成、消費期限やアレルギー表示内容なども自動化が実現し人的ミスと負担が大幅に改善される。
- 飲料など大量に生産する場合も、固定データの印刷されたロールシートに日々変わる正確なGS1QRを印刷できる。



家電、玩具、電池も含め、原材料からエンドユーザーのトレーサビリティに際し、その手段の選択は大きな経営判断です。

消費者の安全を確保(被害未然防止)のためにトレーサビリティが必要です。



■ scodt cloud では上図のように流通小売などでも寿命切れやリコール品を確実にピックアップできるように GS1QR を利用しています。 <https://scodt.com/trace/>



現在のデフォルトシステムは今後機能拡張を進め、様々なニーズに対応して参ります。今後の機能拡張の予定などはwebサイトで公表しています。

Safety Check On-Demand Technology

知りたい時にいつでもすぐに確認できます！



GS1QR scodt®

修理点検時期



無料アプリ DL サイト
www.scodt.jp



使用期限終了



GS1QR scodt®

リコール品



GS1QR scodt®



<https://scodt.com>

GS1 2D



scodt Android 用
アプリ対応



scodt iOS Android
アプリ対応

動作見本 | JAN+Lot+URL で構成されています。

Andridのscodtアプリでは2種類のG1 2Dで閲覧可能です。順次iOSでも対応いたします。



安全点検あぶり すこどっと

一般社団法人PL対策推進協議会

出展はシステムの普及にご協力いただいた方々の承諾のものを展示しています。ご質問は当団体にてお受けします。

システムの利用料金(年額)

従業員規模	システム利用料金(税別)
10名未満	12万円
10～100名未満	80万円
100名以上	180万円

導入サポート

- システム利用期間中は当団体の正会員として、製品安全、食品安全の取り組みの支援などを受けることができます。
- システムのご利用に際して様々なサポートをいたします。
- 基本的にZOOMによるご指導になります。
- 取扱説明書や表示の改善、社内体制や製品事故、リコールの対応方法、社内規定の改革などについては別途コンサルティングサービスを用意しています。会員には割引が適用されます。

ご利用約款

当サービスの契約は約款に基づき申し込みと料金お支払いによる約款契約になります。詳細は下記URLにて記載していますのでご利用に際してはよくお読みください。

https://apl.or.jp/wp-content/uploads/2024/12/scodt_yakkan_2024.12.9.pdf

大手・準大手企業様

このサブスクリクションシステムは中小企業様にご利用しやすくした仕様となっています。

自社システムやアプリへの機能追加や自社で当システムに関わる特許やノウハウを利用した自社システム構築支援もおこなっております。開発者(特許所有者)とは当団体がお取次をいたします。

特許などについて

このシステムは、開発者で当団体会長の渡辺吉明が国内と台湾の特許を取得し社会システムとしての普及を進めています。

バーコードに限らず光学的にコードを識別しWarningのためにデバイスの画面を切り替えることが特許となっています。

システムはこの特許を利用したビジネスモデルとし、開発者が各方面での論文、ノートなどで2016年から行っており内容について著作権も主張しています。当該事業について関心を持たれる方、台湾特許を利用したいパートナー様を募集しています。併せて当団体にご連絡ください。

当団体の活動について:

当団体はPL(製造物責任)という法理に基づき、司法領域ではない事業者が生産するものが市場で被害を出さないための「未然防止」を進め、結果として万一被害がでたら直ちにそのリスクと対応方法を直接商品を利用しての方、サプライチェーン全体に伝え、被害を極力低減させることを目的に活動しています。取扱説明書や表示対策の検証、最新の品質管理のできる体制整備、教育プログラムなどを通し、製品安全社会の醸成を進めています。



システムプロバイダー

一般社団法人 APL-Japan

Association of Product Liability Japan

<https://apl.or.jp/>

【事務局】 〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町35-28

TEL 050-6865-5180 FAX 022-247-8042

Email office@apl.or.jp

【本 部】 〒173-0013 東京都板橋区氷川町47-4アビタシオンK 1F

